

ボランティア・プランナー 任命者(平成24年10月31日)

No	都道府県	市町村	氏名	所属・役職	主な活動
1	青森県	北津軽郡 鶴田町	一戸明彦	(株)鶴の里振興公社 (道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」 駅長)	道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」の駅長として、地場農産物を活用した話題性のある加工品の開発や地場産物を使用した学校給食を推進するため、地元食材の供給体制の整備など地元農産物の付加価値向上に貢献。 津軽半島の9つ道の駅が連携した「津軽半島「道の駅」会」の発足に尽力するとともに、観光土産品の共同開発により地域間の連携強化を図っている。
2	青森県	青森市	古川博志	青森県中小企業団体中央会連 携支援部連携支援二課 主査	青森県内の事業者で構成する「青森県果にんにく協会」及び統一ブランドによる加工品の地産地消を目指す「青森県農産品加工協同組合」の設立に携わる。 青森県農産物加工協同組合では現在、県内企業19社が「あおり正直村」ブランドとして、県内40ヶ所の売場で販売しており、地場農産物の付加価値向上に貢献。
3	青森県	むつ市	原英輔	(有)斗南丘牧場 代表取締役	「地元の消費者に直接、乳製品を届けたい」との思いから、地元の酪農家と法人を設立し、加工施設と直売所を併設したミルク工場「ボンサーブ」を整備し、酪農体験の受け入れや、地域小学校での出前授業など地域酪農振興に寄与。 地域の異業種と連携し「下北燦々会」を結成し、新商品の開発やイベントの企画、販売ルートの開拓など流通不利地域である下北半島の地産地消に取り組んでいる。
4	岩手県	紫波郡 紫波町	佐々木廣	オガール紫波(株) マルシェ開発部 部長	県内最大級の売上げを誇る農産物直売所「さん・フレッシュ都南」等を経営し、地場農林水産物の提供のほか、県内他産地との交流、地元の加工業と連携した「もちモチシリーズ」などの地産地消商品開発、知的障害者施設との商品開発による雇用促進など様々なアイデアによって、地産地消を核とした地域活性化を図っている。 また、学校給食については、町内産の食材を最優先で供給する体制を構築。
5	岩手県	下閉伊郡 岩泉町	邊見むつ子	岩手スローフード協会 副会長 宮古地方食の匠連絡協議会 会 長	「岩手スローフード協会」の設立から参画し、地元食材を活かした郷土料理開発や伝承に取り組んでいる。 また、地元農産物や食文化について、学校給食関係者や生産者へ指導を行っているほか、郷土料理コンクールの選考委員や農家レストランのメニュー作りアドバイザーを務めている。
6	岩手県	奥州市	佐藤功和	(株)プラザ企画 プラザグループ総料理長	ホテルグループの総料理長として、県や市町村、JA等と連携し、地産地消の食材発掘や商品開発を展開しており、特に最近では県内各地の生産者を訪ね、里芋や地養豚、米粉などを利用した地域特産品の開発に尽力。 また、東日本大震災からの復興に向けて「食の匠の会」や「三陸の食を楽しむ夕べ」を開催するなど支援活動を実施するなど、農業者からの信頼も厚く、幅広いネットワークを持っている。
7	宮城県	仙台市	宮地徳子	LOHAS環境共生産業創出型く らしづくり会議	フードコーディネーターとして、県の重要な作物である大麦や県産農産物の生産振興と消費拡大を目的に県庁のレストラン用に新メニュー「麦とろ御前」を創作したり、百貨店で地産地消のイベントを開催するなど、地元の食材の販路拡大に取り組んでいる。 また、消費者向けセミナーやラジオ番組などでも活躍し、地産地消の推進と情報発信を行っている。

8	宮城県	大崎市	矢内信孝	おおさき楽友会 事務局長 鳴子温泉大正館 料理長	宮城県大崎地域の料理人、農業者、流通業者、旅館・ホテル経営者などで構成する「おおさき楽友会」を立ち上げ、旬の地場農産物を活用した食の提案や地場産食材での料理対決や異業種間交流イベントを企画。 また、消費者向けセミナーやラジオ番組などでも活躍し、地産地消の推進と情報発信を行っている。
9	宮城県	本吉郡 南三陸町	阿部國博	南三陸農業協同組合 次長	米穀商業組合、農協、管内市町、県地方振興事務所が連携する南三陸米地産地消協議会のPRプロジェクトチームの立ち上げに尽力。 現在はプロジェクトチームの事務局として直売所にて販売・PRを実施するほか、地元の産業まつりやイベントへの参加、新米試食会の開催により南三陸米の地場消費を推進している。 また、子どもたちや保護者へ地産地消の取組を紹介するため「田んぼの生き物調査」や「図画コンクール」などを企画し、理解を深める取組も行っている。
10	秋田県	大館市	石垣一子	陽気な母さんの店友の会 会長	農家の女性達で、農産物の付加価値を付けて農業経営の一翼を担おうと、女性農業者による会を結成し、平成13年に出資金を集めて店を開店。直売・宅配や食堂・加工活動に取り組みしており、県内2番目の売上げ規模にまで成長。 会の中ではリーダー的役割を果たしているほか、中山そばの会の会長や県のグリーンツーリズムの役員なども務め、直売・食堂・体験交流などにおいて、メニューづくりや人材育成、体験交流活動などを企画している。
11	秋田県	鹿角市	松田誠子	みどりの食材連絡会 会長	市内8直売所が一つの業者として鹿角市内の学校給食へ地場農産物を供給する「みどりの食材連絡会」の会長として、会員と栄養士との意見交換の場を設けるなど、学校給食における地場農産物の使用率向上に貢献している。 また、日々の食材供給活動にとどまらず、学校訪問や小学生を招いた秋田フキの刈り取り体験学習を実施するなど、子ども達への食育活動を行うほか、市民を対象とした講演会では、地場農産物を食卓へ取り入れるメリット等についても取り上げ、地産地消の理念を広める取組を実践している。
12	秋田県	大仙市	村田尚正	大仙市商工会 経営部長	平成17年から旧仙北市商工会において地域の食と農と観光を組み合わせた地域資源∞全国展開事業を中心となって実施。 市町村合併に伴い、平成20年からは大仙市商工会において、地場産大豆のブランド化を図るための事業を中心となって実施するとともに、農業法人の農家レストランや野菜直売所兼お食事処立ち上げなど多くの支援を行ってきた。
13	山形県	上山市	遠藤宰吉	檜下百姓園 代表	平成11年に地域の高齢農業者とともに、遊休地の利用、生産者と消費者の交流、環境保全を目的として約10人で百姓園を結成し、年間100種類を超える農産物の対面販売を実施している。 市内の旅館や学校給食、保育園に野菜を提供し、利用者のニーズを直接聞き取り、対応しているほか、食育活動として野菜もぎ取り体験を無料で受け入れ、「畑の先生」として活躍するなど、地産地消活動に取り組んでいる。

14	福島県	須賀川市	澤山聖美	(株)ジェイエイあぐりすかがわ岩瀬	<p>ＪＡすかがわ岩瀬で運営する農産物直売所「はたけんぼ」において、店舗レイアウトの企画、生産者の思いを伝える「はたけんぼ新聞」の発行などを行い、地場農産物の理解促進に貢献。</p> <p>食育指導士や健康管理士などの資格を取得し、各種講演会での講師や幼稚園、保育園での食育、地産地消の理解促進に向けた活動などで活躍。</p> <p>地元の地産地消開発チームにおける活動の中心となり、食品加工業者や飲食店との連携により、特産のキュウリを使ったドレッシングや米粉のうどん等地場農産物を活用した商品、メニュー開発に携わる。</p>
15	茨城県	笠間市	若菜きぬ子	茨城県立農業大学校 非常勤講師(農産加工講座)	<p>平成８年から１６年間にわたり、県農業総合センターの技術指導員として、地域農産物を活かした加工品開発に向けた農産加工技術向上講座の講師を務めるとともに、農村女性起業家や起業グループ等の商品開発指導や市町村・ＪＡ等の特産品開発に向けた現地指導に取り組んでいる。</p>
16	埼玉県	吉川市	押田多	町田製菓専門学校 講師	<p>長年にわたり、レストランや外食企業で新商品・メニュー開発業務に携わり、食材の特徴を活かした商品開発に尽力。</p> <p>また、町田製菓専門学校の講師としても、若いパティシエを指導するなど、人材育成を行っている。</p> <p>六次産業化法の認定事業者である(有)中井農産センターにおいて、米粉を使用した商品開発を担当しており、様々なオリジナル商品開発に取り組んでいる。</p>